



2013年度（平成26年2月期）
第3四半期 決算補足資料

1. 2013年度(平成26年2月期)第3四半期 決算概要

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。

社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

2013年度 第3四半期 連結業績ハイライト

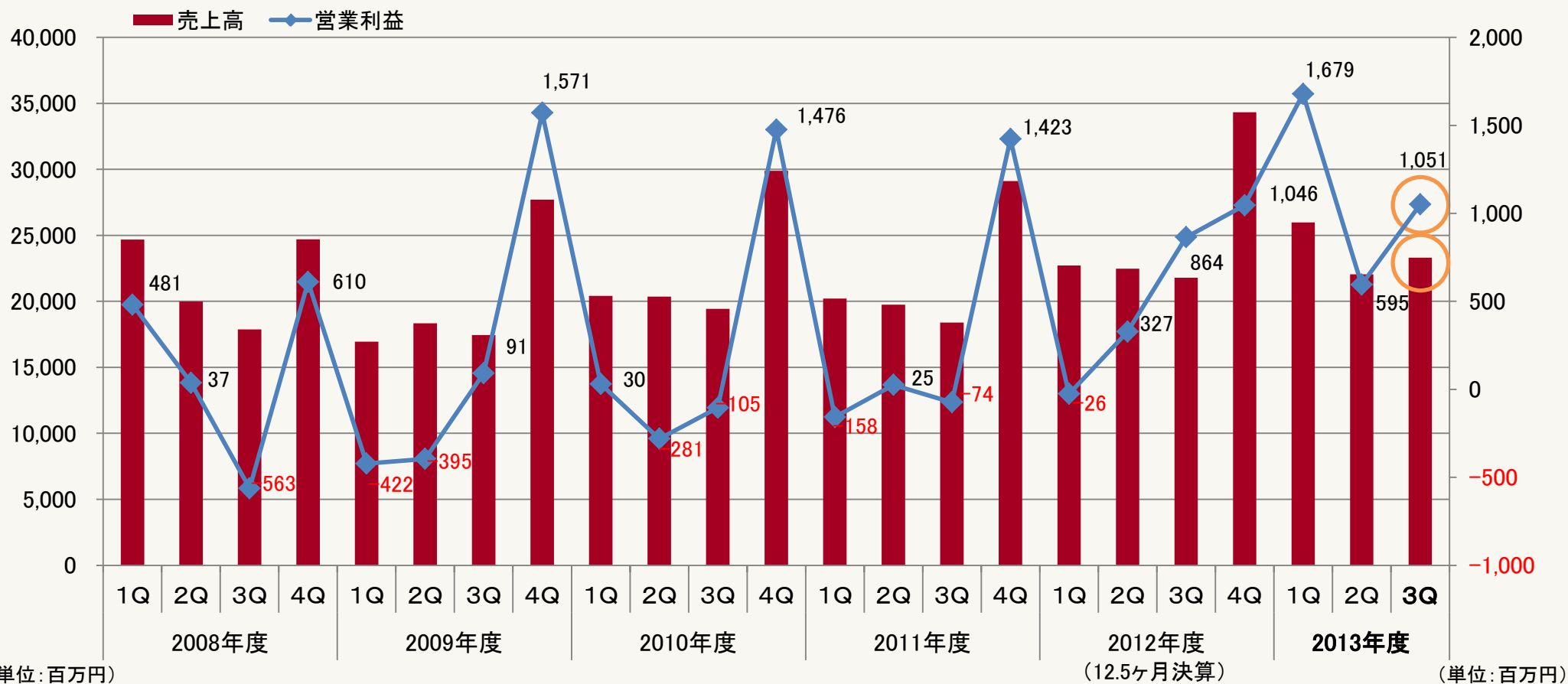
- ➡ 売上高は、主力市場である専門店市場、広報・販売促進市場に加え、余暇施設市場において需要が拡大したため、前年同期に比べて増収となった
- ➡ 営業利益は、受注判断の厳格化、採算性を重視した受注の徹底により大幅な増益となった

<第3四半期累計>	2012年度	2013年度	前年同期比 増減額(率)
売上高	66,987	71,347	4,360 (6.5%)
営業利益	1,165	3,326	2,161 (185.5%)
四半期純利益	533	1,811	1,278 (239.7%)

(単位:百万円)

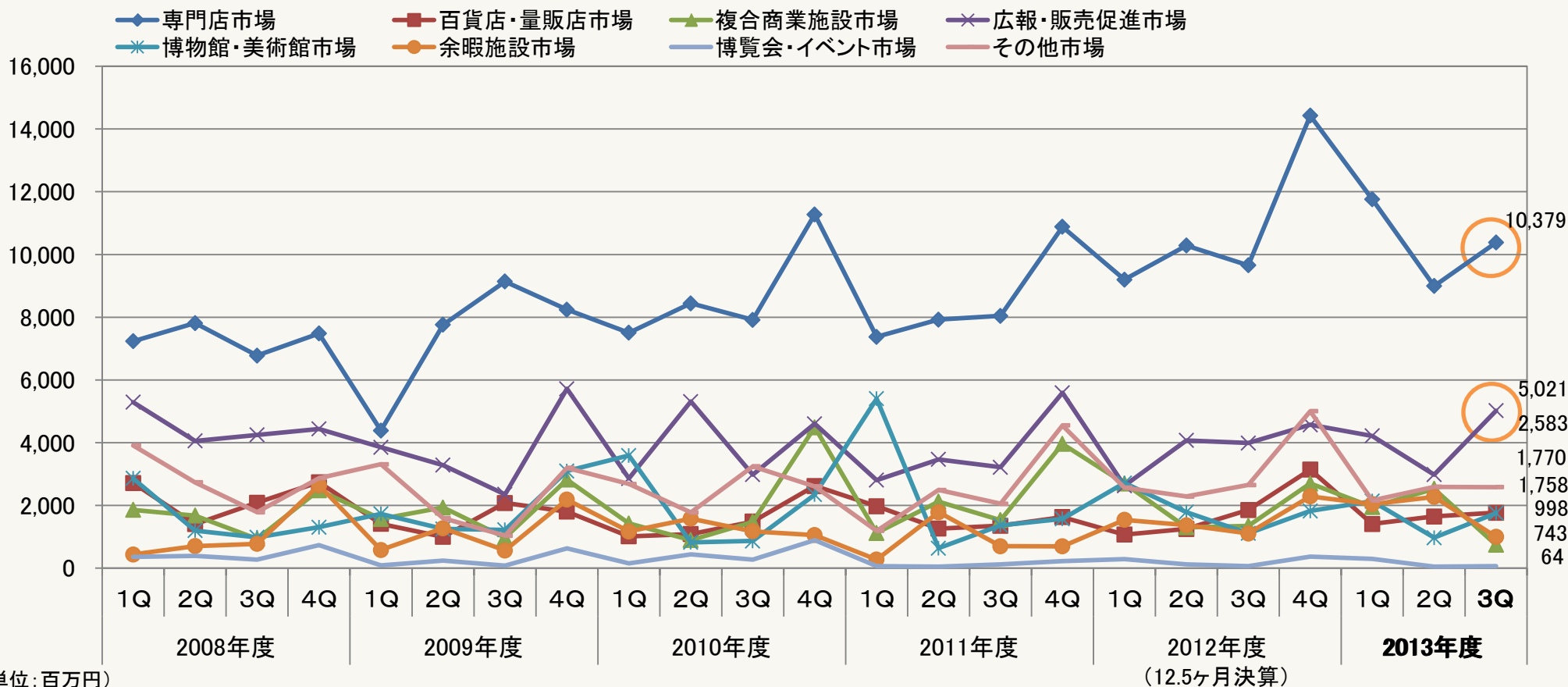
売上高・営業利益の四半期推移

- ▶ 第3四半期の比較において、売上高、営業利益ともに近年では高い水準となった
- ▶ 第3四半期の営業利益は、商業施設分野を中心に総利益率が向上し、前年同期に比べて増益となった



市場分野別売上高の四半期推移

- 第3四半期の専門店市場は、ファストファッションやインポートブランドの新装・改装のほか、大型路面店の改装があり第2四半期に比べて増加した
- 東京ゲームショウなどの秋の展示会を手掛けたことに加え、大型の企業ショールーム・PR施設の需要が拡大し、第3四半期における広報・販売促進市場は50億円を超える高い水準となった



(注)不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。

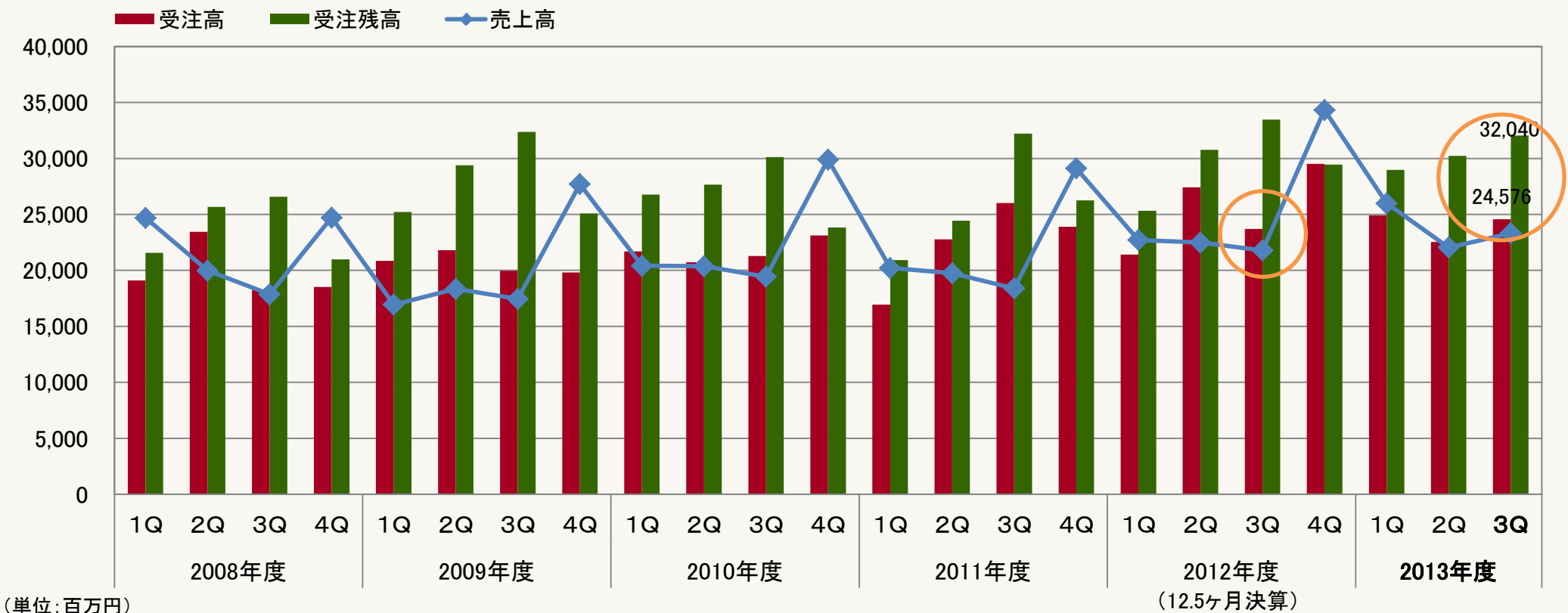
市場分野別の状況

- ▶ 主要都市における新装・改装需要が拡大した専門店市場、住宅関連の大型ショールームや東京ゲームショウなどの展示会を手掛けた広報・販売促進市場、シティホテルや大型アミューズメント施設を手掛けた余暇施設市場が増加した
- ▶ 博物館・美術館市場は大型案件がなく減少、その他市場は前年同期に大型案件があったため減少した

<第3四半期累計>	2012年度		2013年度		売上構成率		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	当期	
専門店市場	29,141	24.8%	31,137	6.9%	43.5%	43.6%	大型商業施設などに出店するアパレル店舗のほか、インポートブランドや金融店舗などの新装・改装を手掛け増収となった
百貨店・量販店市場	4,177	△9.1%	4,832	15.7%	6.2%	6.8%	主要都市の大手百貨店の増床、改装を手掛け増収となった
複合商業施設市場	5,355	12.0%	5,222	△2.5%	8.0%	7.3%	首都圏の大型複合施設の新装・改装を手掛け堅調に推移したものの、前年同期に大型案件があったため減収となった
広報・販売促進市場	10,695	12.6%	12,222	14.3%	16.0%	17.1%	住宅関連メーカーのショールーム、家電メーカーの企業PR施設、秋の展示会などを多数手掛け増収となった
博物館・美術館市場	5,613	△24.2%	4,866	△13.3%	8.4%	6.8%	海洋文化館、とおの物語の館などの改装を手掛けたが、大型の展示案件がなく減収となった
余暇施設市場	4,018	45.5%	5,318	32.3%	6.0%	7.5%	温浴施設、アミューズメント施設の大型案件のほか、ホテルの需要が伸びたことにより大幅な増収となった
博覧会・イベント市場	477	105.7%	412	△13.6%	0.7%	0.6%	姫路城の公開施設、全国植樹祭(鳥取)の運営業務などを手掛けたが、減収となった
その他市場	5,840	35.2%	5,431	△7.0%	8.7%	7.6%	美容クリニック、ブライダル施設、ワークプレイスなど幅広い分野を手掛けたが、前年同期の大型案件の影響により減収となった
ディスプレイ事業 小計	65,319	14.7%	69,444	6.3%	97.5%	97.3%	
不動産事業	349	△0.7%	368	5.3%	0.5%	0.5%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入によるもの
飲食・物販事業	1,318	23.5%	1,535	16.4%	2.0%	2.2%	博物館のミュージアムショップや駅ビルなどの飲食・物販店舗を運営、昨年の出店効果および決算期変更の影響により増収
合計	66,987	14.8%	71,347	6.5%	100.0%	100.0%	(単位:百万円)

受注高・受注残高の四半期推移

- ▶ 第3四半期の受注高は、受注判断の厳格化をおこなっているものの、堅調な需要を背景に前年同期に比べて増加している
- ▶ 受注残高は、前年同期に比べて若干の減少となっているが、300億円を超える高い水準を維持している



市場分野別の受注高・受注残高

- 受注高は、広報・販売促進市場において大型ショールームや展示会ブースを数多く受注、博物館・美術館市場においても新装・改装需要が拡大し、堅調に推移しているものの、複合商業施設市場、余暇施設市場において前年同期に大型案件を受注した影響により減少となった
- 受注残高は、商業施設分野を中心に売上計上が増加した影響により減少しているが、住宅関連メーカーの大型ショールーム、大手ガスメーカーの展示施設を受注している広報・販売促進市場、官公庁系の中・大型の博物館が増加傾向にある博物館・美術館市場が大幅に増加した

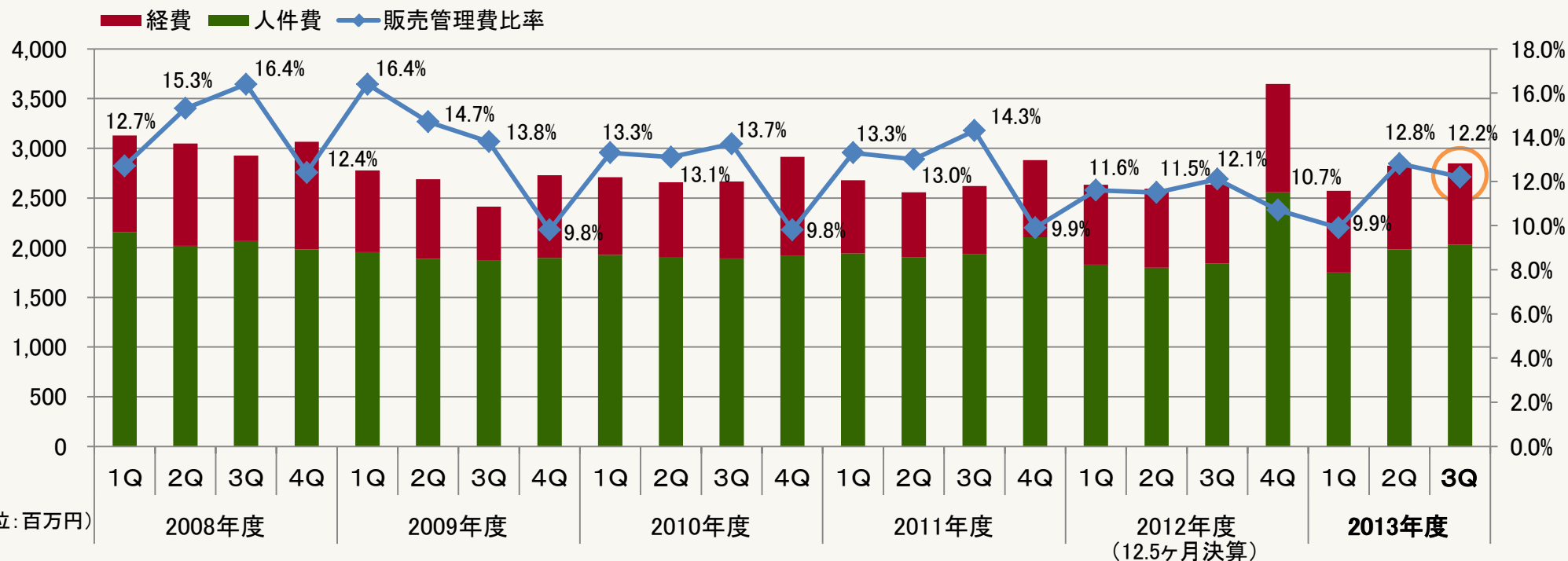
<第3四半期累計>	2012年度		2013年度		受注高 前年同期比 増減額(率)		受注残高 前年同期比 増減額(率)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	30,396	8,933	30,574	7,712	178	0.6%	△1,220	△13.7%
百貨店・量販店市場	5,712	2,274	4,814	959	△898	△15.7%	△1,315	△57.8%
複合商業施設市場	5,800	3,881	3,526	2,699	△2,273	△39.2%	△1,182	△30.4%
広報・販売促進市場	12,096	4,941	13,436	6,198	1,340	11.1%	1,257	25.5%
博物館・美術館市場	5,379	3,420	8,071	5,751	2,691	50.0%	2,330	68.1%
余暇施設市場	6,497	4,469	4,701	4,050	△1,796	△27.6%	△419	△9.4%
博覧会・イベント市場	610	507	215	153	△395	△64.7%	△354	△69.8%
その他市場	6,045	5,035	6,696	4,514	650	10.8%	△520	△10.3%
合計	72,539	33,464	72,036	32,040	△502	△0.7%	△1,423	△4.3%

(単位:百万円)

(注)不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

販売管理費の四半期推移

◆ 人件費が業績賞与の引当などにより前年同期に比べて増加、経費も微増となったが、第3四半期までの累計の販売管理費比率は11.6%と前年同期に比べて0.2%低下している



経費	974	1,032	861	1,082	822	801	545	832	783	753	776	993	736	654	684	776	805	795	793	1,091	824	842	819
人件費	2,156	2,017	2,066	1,984	1,956	1,888	1,869	1,896	1,927	1,906	1,891	1,921	1,943	1,903	1,937	2,105	1,829	1,797	1,842	2,556	1,749	1,984	2,030
販管費計	3,131	3,049	2,927	3,067	2,778	2,689	2,415	2,728	2,710	2,659	2,667	2,914	2,680	2,557	2,621	2,881	2,635	2,593	2,635	3,657	2,574	2,826	2,849

(単位: 百万円)

連結損益計算書

<第3四半期累計>	2012年度	2013年度	前年同期比 増減額(率)		ポイント
売上高	66,987	71,347	4,360	6.5%	大型商業施設の新装・改装需要が旺盛であった商業施設分野(専門店市場、百貨店・量販店市場、複合商業施設市場)が堅調に推移し、大型ショールームを数多く手掛けた広報・販売促進市場、アミューズメント施設、ホテル等の売上が拡大した余暇施設市場の影響により増収となった
売上総利益(率)	9,029(13.5%)	11,577(16.2%)	2,548	28.2%	売上の増加に加え、受注判断の厳格化、原価管理の徹底により総利益が大幅に増加、総利益率は前年同期に比べて2.7%良化した
販売管理費(率)	7,864(11.8%)	8,251(11.6%)	387	4.9%	賞与引当金繰入額の増加などにより前年同期に比べて増加した
営業利益(率)	1,165(1.7%)	3,326(4.7%)	2,161	185.5%	総利益率の向上、売上の増加による固定費効果により大幅な増益となった
経常利益(率)	1,268(1.9%)	3,367(4.7%)	2,099	165.5%	
特別利益	0	183	183	—	保有している有価証券の売却によるもの
特別損失	154	565	410	265.5%	グループ子会社の所有する不動産の収益性の低下にともなう減損処理などによるもの
四半期純利益(率)	533(0.8%)	1,811(2.5%)	1,278	239.7%	

(単位:百万円)

連結貸借対照表

		2012年度	2013年度 第3四半期	前期末比 増減額(率)		ポイント
資 産	流動資産	35,224	32,161	△3,063	△8.7%	前期末からの売上債権の回収が順調に進み、売掛金が減少するとともに前期末の仕入債務の支払、配当や税金等の支払による現金及び預金の減少により30億63百万円の減少となった
	固定資産	23,115	21,972	△1,143	△4.9%	社員寮などの遊休資産の売却、子会社の商業ビルの減損処理などにより減少
	資産合計	58,340	54,133	△4,206	△7.2%	
負 債 純 資 産	流動負債	26,468	20,841	△5,626	△21.3%	期末月の仕入の減少による支払手形、買掛金の減少、大型案件の完工にともなう前受金の減少、受注判断の厳格化による不採算案件の減少にともなう工事損失引当金の減少などにより56億26百万円の減少となった
	固定負債	5,827	5,798	△29	△0.5%	退職給付引当金などの減少により微減となった
	負債合計	32,296	26,640	△5,655	△17.5%	
	純資産	26,044	27,493	1,449	5.6%	配当金の支払いがあったものの、四半期純利益の増加により利益剰余金が増加、投資有価証券の時価回復により、その他有価証券評価差額金などが増加した結果、14億49百万円の増加となった
	負債純資産合計	58,340	54,133	△4,206	△7.2%	

(単位:百万円)

2. 2013年度(平成26年2月期) 業績予想

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。

社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

2013年度 連結業績予想

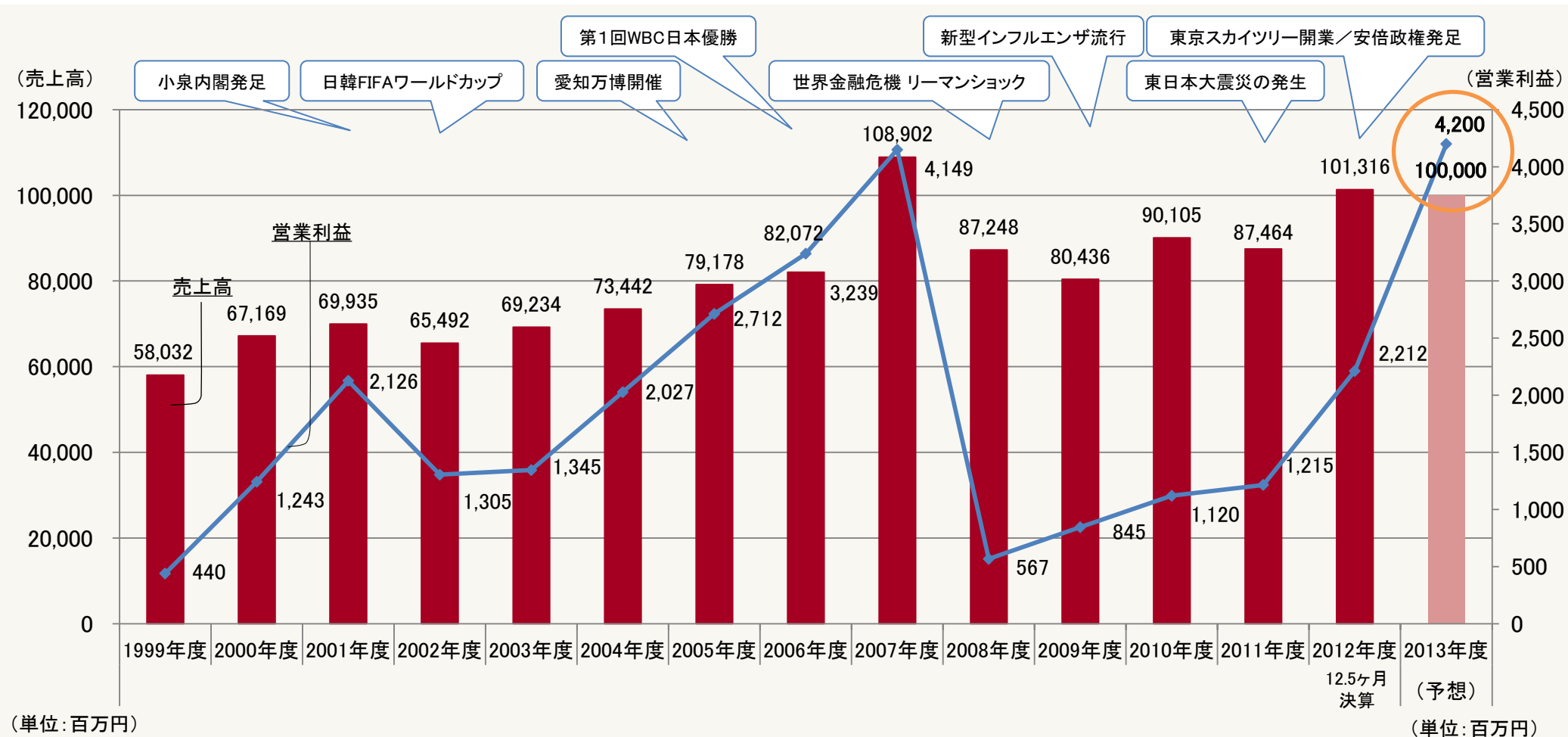
- ▶ 第4四半期も順調に推移する予定であり配当予想・業績予想の修正をおこなった年間配当金14円、営業利益42億円を予想している
- ▶ 前期が12.5ヶ月決算のため売上高は減収予想としているが、総利益率の改善、固定費の抑制効果により営業利益の大幅な増加を見込んでいる

(単位:百万円)	2012年度 (12.5ヶ月決算)	2013年度 <10/10 修正予想>	2013年度 <1/10 修正予想>
売上高	101,316	100,000	100,000
営業利益	2,212	3,900	4,200
経常利益	2,383	3,900	4,200
当期純利益	1,242	2,000	2,200
一株当たり当期純利益	22.25円	35.82円	39.42円
一株当たり配当金	10.0円 (記念配当2円を含む)	12.0円	14.0円
配当性向	44.9%	33.5%	35.4%

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

通期業績の推移

- ◆ 2013年度予想を達成すると、売上高は2期連続で1,000億円を超え、5期連続の増益を達成する
- ◆ 市場環境は好調であり、固定費・原価管理の徹底により利益率が向上している



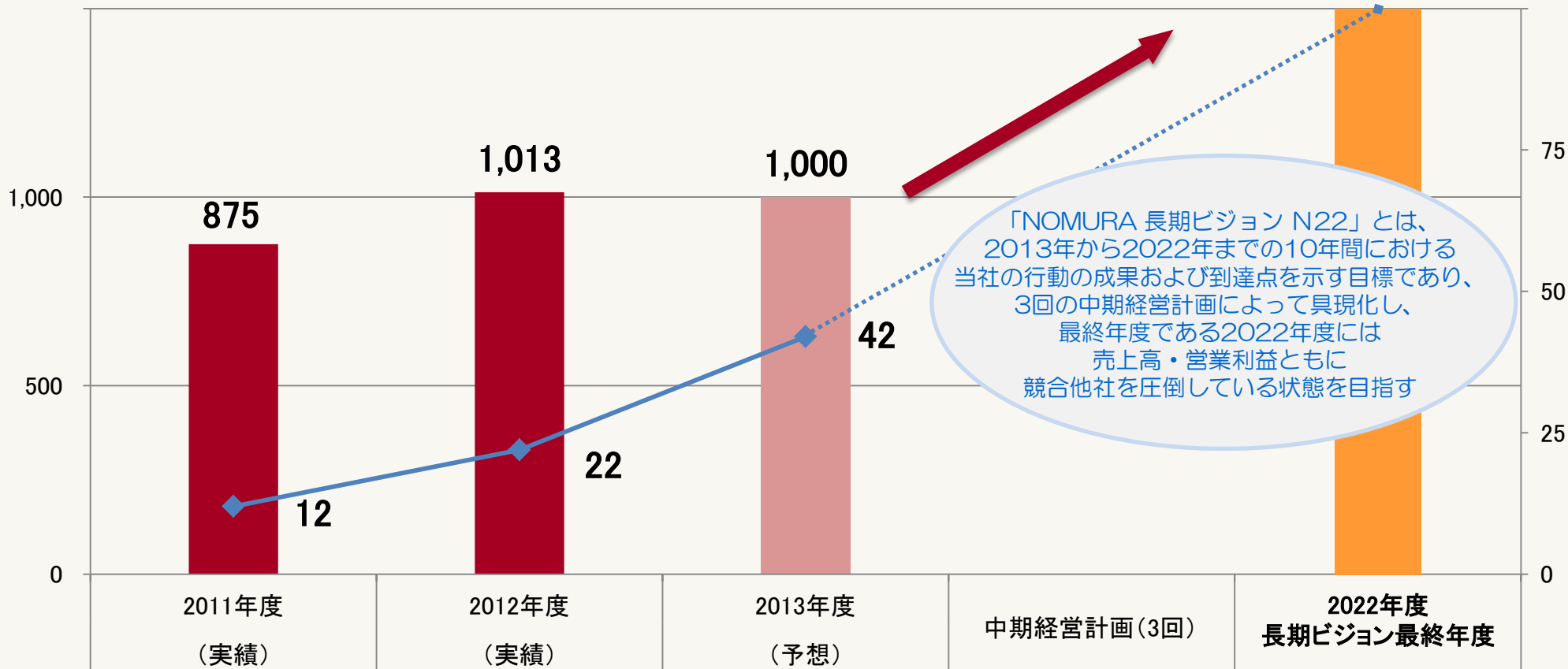
(注) 実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

乃村工藝社の今後の成長

- ◆ 2013年度は、現在推進している中期経営計画の最終年度
- ◆ 10年間の「NOMURA 長期ビジョン N22」を作成、これを指針に新たな中期経営計画を策定中

■ 売上高 ◆ 営業利益

「NOMURA 長期ビジョン N22」のGOAL！



(単位: 億円)

(単位: 億円)

(注) 実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。